

## 前期自主防災防犯講習会開催

7月3日(日)9時から約3時間薬師が丘第1集会所で前期自主防災防犯講習会が開催された。

『災害時相互応援協定』を取り交わしたサムエル薬師が丘子どもの園とファイネス薬師が丘からも参加があった。(受講人数36名、講師5名)

1部『防犯交通安全講習』では佐伯警察署から生活安全課 向井警部補、交通課 三宅課長を講師に招き特殊詐欺対応、交通安全について、元カープ達川さん主演の特殊詐欺被害抑止DVDなどを活用しての講話を受けた。

2部『自主防災講習』では、佐伯消防署八幡出張所竹本隊長、御園生副隊長、田中隊員からAEDの使用、救急救命法の訓練、消火器の使用体験などの指導を受けた。

参加者から「消火訓練は良い勉強になりました。万が一、火事に遭遇した時は身体が震えて思うように動けないでしょう。だから今回のような機会の都度、消火器を手に取り何度も練習したいですね。次回は油火災の消火訓練がやりたいです。」との声があった。



元カープ選手の達川さんの名演技で、特殊詐欺の手口が実感できた。

〈対応ポイント〉

- ・落ち着いて対応する。誰かに相談する。
- ・キャッシュカードを渡さない。暗証番号を教えない。
- ・家にいる時も留守番電話に設定して不審な電話に出ない。



〈参考〉

AEDはファイネスとサムエルにあり利用可能です。(休日は借用できません)救急車は薬師が丘におおよそ5分ほどで到着することです。

訓練用消火器で水を噴射、出来るだけ火元までいくんよ。  
消せないと判断したらすぐ逃げる!

## 近年の激甚災害から学ぶ ~社会(時代)の変化への洞察と防災力の強化:共に生き・励まし合い~

2北 乗安直人(防災防犯副部長)

技術士会防災委員会の活動から得た知見を紹介し、頻発化する激甚災害を一覧し(激甚災害を契機として)コミュニティとして(希望に向かう)あり方・取組みに参考にして頂ければ幸甚に存じます。

### 1. 激甚災害の多発に至る経緯

#### (1) 1991年以降の(激甚)災害(表1参照)

災害は、高潮災害、台風災害(塩害・強風・竜巻)豪雨災害(洪水)、土砂・土石流災害、

地震災害(津波、地殻変動、原発災害)、火山災害、パンデミック等あります。

これらの災害の幾つかは経験しています。

1999年6月の広島市豪雨災害は、隣の八幡が丘で死者が出ました。

激甚災害が起こる兆候(変化の兆し)は、1991年9月の台風19号の護岸崩壊と高潮による浸水被害です。

1995年1月17日未明に発生した阪神淡路大震災は阪神に甚大な被害をもたらしました。

1991年以降の各激甚災害を経る中、各種設計法を次々見直すことになりました。

1991年以降自然現象が大きく変わり始めます。

## (2) 2011年以降の頻発する激甚災害（表1参照）

被災者が復旧にぼう然自失するような規模です。災害形態も、山間部の局所区域から、下流の平地まで広域化等変化します。

2011年3月東日本大震災は福島原発事故を伴い既往最大規模の複合災害です。原発事故は首都の壊滅状況さえ想定されました。現地災害対応では、大川小学校で大きな悲劇に、一方釜石小学校では、小学生の防災教育により小学生から中学生、家族への避難を先導、劇的に被災者を減じました。弱者（小学生、老人）への防災教育の重要さが認識されました。

1991年以降の気候・地球地殻変動は、全ての設計の大きな見直しになりました。技術士会中国本部は四国・中国地方で予測される南海トラフ地震（1945年発災）に備えて「東日本大震災からの教訓と今後の備え」と題し講演会を開催しました。

2014年8月の広島豪雨災害は、狭い区域で線状降水帯による集中豪雨で発災しました。激甚災害が契機になり、被災者の大きな困難の中、災害復興において、行政のみならず、住民、ボランティア等の自主的取り組みが見直し、活性化するようになります。

2018年西日本豪雨災害は倉敷市真備町で河川堤防の決壊により逃げ遅れた方々の死者が出ました。一方、呉市でも都市機能が麻痺する甚大な災害が発生、広島呉道路の迅速な復興のため地元コンサルタントが提案を行い道路啓開を1ヶ月かかるところを5日間に短縮しました。技術者が、一市民としての提案、周囲を変えた事例であると考えています。坂町は下流部の広範囲な箇所が被災しました。近年の激甚災害では、各地区の被災箇所が多発する中、各地区的住民組織が立ち上がり、「自助、共助、公助」の各取組みが組織的になされていました。この時、坂町役場の多くの職員も被災し「公助」も通常の状況で機能できない状態が発生しました。

2016年大分・熊本地震は、多くの拠点が断層上にあったため復興に支障をきたしました。各種激甚災害を契機に新たな認識と取組みと共に、あらためて自助、共助の中心となるコミュニティの大切さが見直しされるようになりました。

2019年東日本台風時、八ッ場ダムの完成で利根川の堤防の決壊が防げたと言われています。

2020年熊本県球磨川豪雨災害では川辺川ダムが建設されず洪水が発生大きな災害が発生しました。

## 2. 激甚災害の多発と時代の大きな変化

### (1) 近年の激甚災害から希望に向けた取組み

現在我々が経験している激甚化災害は、世紀的なものと考えて良いように思います。

希望に向けた対策例、西部山系大谷川砂防ダム工事は特別措置法によりほぼ完成に近い状態になっており、昨年、2018年西日本災害と同規模の累積降雨量

表1 1991年以降の（激甚）災害一覧 太字:事例採用

1991年9月27日	台風19号高潮・沿岸部浸水・塩害災害
1995年1月17日	<b>阪神淡路大震災</b> 死者不明者 6437名
1999年6月29日	<b>広島市豪雨災害</b> 死者不明者 39人
2001年3月24日	<b>芸予地震</b> 震度5強～6弱、震源:安芸灘
2005年9月6日	台風14号による災害 死者不明者 29人
2009年7月21日	防府市豪雨災害 死者不明者 17名
2010年7月16日	中国・九州北部豪雨 死者不明者 22名
2011年3月11日	<b>東日本大震災</b> (津波越波による緊急電源喪失による原発災害、首都圏帰宅困難者) 震度9、死者不明者 18,423人
2014年8月20日	<b>広島豪雨災害</b> 死者 77人
2016年4月14日	<b>熊本・大分地震</b>
2017年7月6日	<b>北部九州豪雨災害</b> 死者不明者 41名
2018年7月7日	<b>西日本豪雨災害</b> 死者 273名 真備町浸水 呉市浸水、ライフル線被災、孤立
2019年10月10日	<b>東日本台風時</b> 死者不明者 108名
2020年7月4日	<b>熊本県球磨川豪雨災害</b> 死者不明者 86人

で、降雨がもう少し長く続けば2018年西日本災害のような災害が起こったであろうこの砂防ダムの建設は早期復興の象徴的姿を見る思いでした。

2020年熊本県球磨川豪雨災害の復興に対しては「流域治水計画」田畠を貯水力として「活用、グリーンインフラ」の適用等、省庁をまたがった明治維新以来の、復興計画の見直しが始まっています。

2018年西日本豪雨災害時孤立した呉市の復興に市民ひとりひとりの取組みが早期復興を実現しました。

激甚災害は、行政のみならず、市民ひとりひとりの生き方さえ変える（希望に向け、強める）時代になってきているように思います。

南海トラフ地震に対しては、南海トラフ地震防災対策に関する特別措置法により、600mごとに避難塔等の設置、復興を支援する四国高速道路計画など、前倒しの取組みが実施されています。

広島呉道路の4車線化、中国地方高速道路網の4車線化など災害に強い各種インフラ計画が連携して進んでいます。

2014年広島豪雨災害、2018年西日本豪雨災害等激甚化災害時から14団体から成る広島県災害復興支援士業連絡会が作られ被災者相談の支援に専門家を派遣等の支援をするようになり、この取り組みは全国的に展開する計画が進んでいます。

### 3. あとがき

災害は、表1に示す各種災害だけでなく、2018年11月新型コロナウイルス等のパンデミック、2022年2月24日ウクライナ戦争の勃発（核を脅かしとする戦争も想定される時代）に伴う、世界的戦争も含まれます。

度重なる激甚災害は、多くの困難と共に、その回避・復興に、希望を持って進む洞察力と力も与えてくれます。コミュニティにとっても大きな試練を経験しますが、回避・復興に向けて希望を持って取り組む力も与えてくれるように思います。

# 野菜作りと招かざる客

3丁目北 清川 洋

私は、10年以上前から野菜を作っています。

家の隣に利用できる空き地があつたことや仕事をリタイアしたあとの生活を考えて始めました。

現役を退いたあと、残りの人生というと大袈裟ですが、日々をどのように送る(いわゆるルーチン)のか、特にサラリーマンには共通の課題ではないでしょうか。

特にこれといった趣味がなかつたため、体力維持や実益(新鮮で安心な野菜を食することができる)を兼ねて野菜作りを始めましたが、私には合っていたように思います。

作る量は、我が家で食べられる程度とし、こどもや孫たちにもあげています。

まったくの素人仕事ですが、それなりに野菜は収穫できています。

何事もそうですが、野菜がおいしくなるかどうかも、いかに手間をかけるか、愛情をかける量に比例すると思っています。

朝・夕の水やり・雑草取り・施肥など、少ない耕作面積ですが、それなりにやることは毎日たくさんあります。さて、野菜作りは、種や苗を植え、水やり等の世話をしても、収穫する時が最も楽しみな瞬間ですが、この楽しみは、収穫時期に現れる野生動物によって度々邪魔をされます。

野菜を作られている方は、経験されているとは思いますが、私も毎年、何らかの被害にあっています。

実際に食べられる現場を見たことがない(犯行は主に深夜)ので、犯人はよくわかりませんが、家の周辺で、これまでに、イノシシ、サル、狸は年に数度目撃していますので、おそらく犯人はこれらのどれかだと思われます。

特に、サツマイモは、7~8年前に3年間続けて被害にありました。

一晩で跡形もなく無くなっていた(推定100個はあった)ので、犯人は、イノシシと思われます。

対策として、サツマイモを鉄網で覆いアルミ線で縛るなどやってみましたが、鉄網はひん曲げられ、全部食べられました。イノシシのすごい力には脱帽です。

おそらく、同一の個体が場所を覚えて毎年やってくると思い、サツマイモは植えることを断念しました。残念ですが、これも、一つの対策と思っています。

サツマイモを植えなくなって以来、イノシシが畑に入った形跡はありません。

他の被害としては、トマト、ナス、かぼちゃが、今年も被害にありました。

6月下旬ころ、朝、家の前でサルを見かけ、翌朝、トマトとナスがかじられていたので、犯人はこのサルだったと推測しています。また、別の日のかぼちゃ被害は狸ではないかと考えています。

トマトは、防鳥ネットで囲んでいましたが、それでも被害にありました。

イノシシは鉄柵等で畑を囲めば、被害が防げるかとは思いますが、サルや狸は柵の上下からやってくるので柵では防げないと想います。

サルや狸の対策として思いついたのが、トマトの房やナス、かぼちゃを熟す前に収穫用のネット袋で覆うことでした。少々面倒ではありますが、これが効果を発揮したのか、あるいは、たまたま野生動物が運よく訪問しなくなったのか、わかりませんが、今のところ、被害はなくなりました。

森林等が開発され、住処を奪われた彼らはその被害者で、生きるために必死なことを考えると、目くじらを立てずに、多少の被害には目をつむる広い心も必要なのかなと感じています。

ただ、最近、野生動物が頻繁に目撲されていますので、野菜の被害ならいいですが、くれぐれも、団地の皆さんには、危険に合わないように気を付けていただきたいと思います。

## 熱中症予防のために

特別養護老人ホーム

栄養士 折手

夏は大量の汗をかくことで、血液中の水分や塩分が汗と一緒に体外へ排出され、体液のバランスが崩れることにより熱中症にかかりやすくなります。

したがって熱中症予防には体温の上昇と脱水を避けることが基本となります。

### ☆水ナスのあっさり和風サラダ



#### 【材料】(2人分)

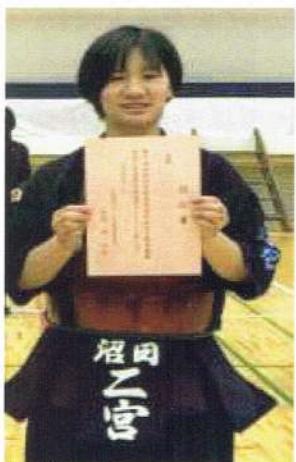
水ナス	1~2個	すりゴマ	適量
大葉	5~6枚	カツオ節	適量
塩	少々	ポン酢	適量

#### 【作り方】

- ① 水ナスは洗って、包丁で切り込みを入れて割くように一口大にする。塩をかけて軽く揉んだら冷蔵庫で冷やす。
- ② 大葉は千切りにして水に通し、アクを流し絞っておく。
- ③ ①が冷えたら器に盛り、すりゴマ、②の大葉、カツオ節をトッピングする。ポン酢をかけて完成。

## ”薬師が丘のキラ人”(多彩な活動をされている人の紹介コーナー)

### 剣道全国大会出場 2丁目北 二宮 姫奈多



#### 『剣道全国大会出場』

7月10日に日本武道館で開催された『全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会』に出場させて頂きました。

高校生を先鋒に大学生、一般の計7名でチームを組み戦いました。結果は一回戦で和歌山県に敗退してしまいましたが、素晴らしい選手の皆さんと一緒に戦うことができ貴重な経験をさせて頂きました。

小学一年生から心成館もみじ道場で剣道を始め、現在は沼田高校で稽古に励んでいます。

新型コロナの影響で中止になった大会も沢山ありましたが、主な大会は開催されることに感謝しています。

8月には全国高等学校総合体育大会(インターハイ)にも出場が決まりましたので、もう一度全国大会で力を発揮できるようにがんばります。



### 『気を付けて』 薬師が丘村編 3丁目 清水宏

高層マンションでの生活とは異なり薬師が丘の住民は隣近所の人たちと顔を合わせる関係の中で生活をしています。この意味で『薬師が丘村』的な生活が要求されると思います。

村的な生活に必要な『気を付けて』は、高齢化進行中の薬師が丘では、どなたにも必要とされることかと思います。

高齢者同士の相互扶助と言えます。

この『気を付けて』は隣にお互いに関心を持つことです。新聞受けに新聞が何日分もたまっている、洗濯物が取り入れていない、電気の消灯がなされていない、このところ外出されているか等に、関心を持てばいいのです。

腹が減る、体が疲れる等でもなく、また時間も取りません。関心を持つことで自ずから“お変わりありませんか?”と声掛けも生まれてきます。そんな声掛けはお隣さんにするだけではなく、私にもその隣から掛かってきます。

挨拶の行き交わない近所では高齢となった我々には、本当に寂しい老後になってしまうのではないか?あなたはどう思われますか?

但し火事・災害等には『津波てんでんこ!』我が身を助けるのが精一杯。出来ることは、関心を持って隣の方と接していれば、その方が耳が遠い方であれば、より大きな声で“火事だ、火事だ”と叫ぶ必要があることがわかります。

いかがでしょうか。介護疲れの殺人、孤独死、高齢者住宅の火事等、ニュースで毎日のように見聞きます。団地の中でも起りうることで他人事ではありません。すべては私事です。

最後に一言、子どもの見守り活動に丸4年、ご自身の全くの自由意思で、ほとんど毎日のように参加された中川さん。都合でこの3月をもって辞められました。ありがとうございました。